

コラム アジアの洪水常襲地帯での洪水危機管理計画の作成支援活動に対して感謝状を受贈

ICHARM では、プロジェクト研究として、アジアの洪水常襲地帯の一つであるフィリピン共和国ルソン島に位置するパンパンガ川流域のブラカン州カルンピット市をモデル地域として、洪水氾濫シミュレーションに基づくコミュニティレベルでの洪水危機管理計画(洪水対応計画)の作成支援活動を実施しました。フィリピン共和国大気地球物理天文局 (PAGASA) 及び国家地理資源情報庁 (NAMRIA) の協力も得て、ICHARM で開発された降雨流出氾濫モデル (RRI モデル) を用いた洪水氾濫シミュレーションを行い、市内に 29 あるコミュニティごとの洪水ハザードマップや時系列での浸水状況を示した浸水チャートの作成・提供を行いました。マップやチャートは、現地コミュニティとの複数回の協議を経て、現地住民にとって理解しやすい表現方法を採用し、現地語(タガログ語)への翻訳も行いました。また、これらのマップやチャートを用いて、コミュニティでの情報伝達・避難・救助等の対応を時系列にまとめた洪水危機管理計画の作成を支援する活動を行うとともに、市内の全コミュニティの災害応担当者及び市・州の担当者らを招いたワークショップを開催し計画作成手法の共有を図りました。ワークショップには、本プロジェクトへの高い関心のもと、約 100 名を超える担当者が参加し、これらの活動に対して、カルンピット市の Jessie P. De Jesus 市長から ICHARM リスクマネジメントチームの研究者に感謝状が贈呈されました。洪水危機管理計画について、他の地域への普及を目指したマニュアルの作成や、国・州等の関係機関職員を招いたワークショップの開催等を通じた更なる普及活動を実践中していきます。



図-1 現地ワークショップでの
100 名を超える参加者

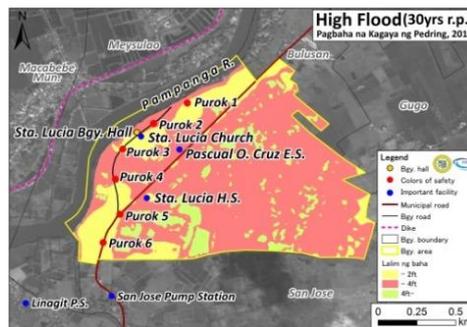


図-2 タガログ語に翻訳したコミュニティ
のハザードマップの例



図-3 カルンピット市長からの感謝状贈呈の様子



図-4 感謝状